

【15 回用】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
小児看護援助論Ⅱ		必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
山田 真衣	305	m.yamada	金曜日 16:00～18:00		
授業の目的・概要	小児領域で特徴的な疾患について、病態生理および病児とその家族についての情報収集・アセスメント・看護計画立案および評価という一連のプロセスを展開することを目的とする。一定の個人ワークの後、同事例を検討しているメンバーとの意見交換をしながら、看護過程の展開の実際を学ぶ。				
学習上の助言	学生が主体となり学習を進めていく授業形態（アクティブラーニング）のため、事前事後学習は各自で行うこと。各自が作成した発達表を持参しアセスメント時に参考にするとうまい。また、選択した事例の疾患について調べてくること。				
教科書	・系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論小児臨床看護総論/著:奈良間美保 他/医学書院/2018 ・系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論/著:奈良間美保 他/医学書院/2018 (2冊指定)				
参考書	・発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護課程/編者:荏津智子/医学書院/2016 ・発達段階からみた小児看護課程+病態関連図/石黒彩子他/医学書院/2013				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	発達段階から捉えたアセスメントができる		NS(1)		
②	疾患・治療から捉えたアセスメントができる		NS(1)(3)		
③	家族の状況から捉えたアセスメントができる		NS(2)(3)		
④	①～③にもとづき立案した看護計画およびケアの実施方法について説明できる		NS(1)(4)		
⑤	疾患をもつ子どもに対して、必要な看護を考えることができる		NS(4)(5)		
⑥	病院を受診する子どもと家族について説明ができる		NS(3)～(5)		
授業計画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	事例の紹介。データベース (様式 1-1、1-2) に必要事項を記入する。	講義・演習	講義を基に課題を実施 課題:「疾患について」使用している薬剤」「発達年齢の特徴」	2	
2	受けもち児の発達段階と疾患の学習ポイントについて学習する。				
3	関連図の書き方について学習する。	講義・演習	講義を基に課題を実施 課題:「関連図」の作成	2	
4	事例について、発達段階・疾患の病態生理・治療の視点から、看護問題関連図を描く。 ※関連図は手書き、ファイルに綴じる				
5	アセスメントの書き方について学習する。	講義・演習	講義を基に課題を実施 課題:「疾患に関するアセスメント」の作成	2	
6	看護問題を抽出し、疾患・治療から捉えたアセスメントを記述する。				
7	実習施設医師を招き、病院を受診する子どもと家族について学習する。	講義	講義を聴講し、レポートの提出 講義を基に自身が作成した 課題:「疾患に関するアセスメント」を完成させる	2	
8	アセスメントの書き方の復習。				
9	看護計画の書き方を学習する。	講義・演習	講義を基に課題を実施 課題:「看護問題 # 1」の作成	2	
10					
11	演習: 基本的な子どもとの関わり方、病室にいる子どもとのコミュニケーション	演習	基本的な関わり方について、小児看護援助論Ⅰの資料を見てください。 演習を参考に、看護計画を修正する	2	
12					
13	看護計画の書き方の復習。 提出記録のまとめ	講義	講義を基に課題を実施 課題: 自身が作成した「看護問題 # 1」を完成させる	2	
14					
15	一連の看護計画立案内容について講評・解説	講義	講義を基に一連の記録物をポートフォリオでまとめる	1	

【15 回用】

試	達成度評価、評価のポイント参照						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		20	50	0	20	10	100
総合力指標	知識・技術力	20	20	0	10	0	50
	思考・推論・創造する力	0	10	0	10	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	今回の事例を基に、アセスメント作成に必要な知識や、看護実践に必要な方法などをテーマに出題する。				試験採点後に、解説などをメール配信する。	
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	情報をアセスメントし、看護計画を立案したものをレポートし、各アセスメントの目的に沿った内容で記載されていること。				添削し返却する。	
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①	各アセスメント段階で調べた資料を順序良くファイルしたものを提出する。				内容を確認し、コメントを入れ返却する。	
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	同時双方向型授業中の態度や参加度、提出方法や状況を基に評価します。積極的に授業に参加してください。				問題のある行動をした学生には、直接大学メールで減点をするを伝える。提出に問題があるときには、コメントを入れ返却する。	
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備考							
担当教員: ◎山田真衣							
教員の実務経験: 担当する看護教員は、看護師として実務経験が5年以上有したものが担当する。 実践的授業の内容: この教科は、担当教員が臨床看護実践で得た経験を基に、リアリティーのあるペーパーペーシェントを作成します。それにより、実践に近い病態生理および病児とその家族についての情報収集・アセスメント・看護計画立案および評価という一連のプロセスの展開方法を学ぶ機会とします。							
<ul style="list-style-type: none"> ・取り上げる疾患については、オリエンテーション時に説明します。 ・学習方法としては、個人学習を基本にしている。その際、節度ある姿勢で取り組むこと。 ・大学が公表している感染対策及び教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めません。 							
※今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります。							